見附市公立保育園民営化等実施計画検討委員会

(第3回) 会議録

役割	内容
日時	令和3年11月19日(金)午前10時30分～午後12時30分
会場	見附市役所4階大会議室
出席者	<p>【見附市公立保育園民営化等実施計画検討委員会委員】</p> <p>小池由佳(県立大学教授)、森澤亜土(教育委員会教育部長)、鈴木浩(企画調整課長補佐)、山口悦正(総務課長補佐)</p> <p>五十嵐一美(子ども・子育て支援地域協議会委員)</p> <p>神子島陽子(子育てサークル「もりりん」代表)</p> <p>小林寛子(見附市立本所保育園長)</p> <p>【事務局】</p> <p>伴内正美(こども課長)</p> <p>(司会)高藤英紀(こども課長補佐)</p> <p>渡邊直樹(こども課幼児家庭係長)、大塚崇(こども課幼児家庭係主任)</p>
開会	<p>【司会】</p> <p>定刻になりましたので、ただいまから、第3次見附市公立保育園民営化等実施計画検討委員会を開会いたします。こども課の高藤です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>早速、議題に入りたいと思います。「見附市公立保育園民営化等実施計画検討委員会要綱」に基づき、委員長より議事の進行をお願いします。</p> <p>小池委員長、よろしくお願いいたします。</p> <p>【小池委員長】</p> <p>それでは、3回目の委員会を開催していきたいと思います。前回の委員会では事務局から計画の骨子が示され、皆様から承認をいただいたところです。今回の会議では、新たに追加された事項の承認と修正をした箇所の説明を中心に行いたいと思います。</p> <p>では、事務局より説明をお願いします。</p> <p>【事務局】</p> <p>まずは、2ページに見附市の地勢を入れ、東部には山間部、西部は平野部、住宅地やその地の用地がわかるように作成しました。</p> <p>3ページでは人口の推移グラフを入れました。グラフの基となっている表について、一つ説明を加えます。表では総人口と世代別人口と合計がありません。これは、県のデータを使用しましたが、この調査では年代がわからない人がいるため、不明者については世代別人数に含めていません。そのことを補足させていただきます。</p> <p>4ページを見て下さい。ここには人口分布図を入れました。緑色の濃いところ</p>

が人口の多いエリアです。駅から刈谷田川にかけてと西部の今町地区にかけて人口が多いことがわかります。

5 ページでは、小学校区とそこにある保育園等を表しました。

6 ページでは、公立保育園の園児数推移のグラフを入れました。園児数は長い期間、横ばいでしたが、令和2年度から令和3年度にかけて、少なくなっています。これは名木野保育園の入園者数がマイナス13名となり、その影響で全体が減ったためです。

7 ページでは、表に平成28年度を加えました。これは、サポートが必要な子どもを早期に発見することを目的としたネウボラみつけを設置した年であり、平成29年度から数値上でも支援が必要なお子さんの数が数字として表れています。

8 ページでは、地域保育園の役割、2つ目の矢印で、国は認可外保育園である地域保育園への運営補助を廃止し、現在は、特例給付制度で事業継続ができている状況であることの説明を加えました。

資料の修正については以上になります。

続いて、前回承認いただいたところの振返りを行いたいと思います。資料14ページを見て下さい。これまで保育園などを取り巻く環境を整理し、3つの課題に集約した表となっています。課題としては、急速な少子化への対応、地域保育園の課題、要配慮児等への対応の3つに集約しています。

そしてその課題解決のための民営化等を検討するにあたり、表では地域保育園の地域内利用者の状況、給食設備、拠点化、医療的ケア児への対応でどのような状況や役割があるかを整理し、Ⅰ～Ⅲの3つのグループに分けています。

【Ⅰ】公立園の保育提供量の調整、【Ⅱ】3園セットでの民営化、【Ⅲ】2園の閉園にそれぞれまとめています。

Ⅰ～Ⅲを具体的にどのように行っていくかは、表の一番右側、課題解決のための目標に記載しています。①公立保育園3園で50人の保育提供量の減を行うこと、②要配慮児への対応、特に医療的ケア児への対応を公立園で担うこと、③名木野保育園・漆山保育園・和楽保育園の3園セットで民営化を行い、給食設備を共有することで3園とも認可保育園となれる可能性があること、④地域からの入園者数が少なくなり、老朽化が進む反田保育園、坂井保育園を閉園することで保育提供量50名を減少させることを目標としています。

目標値では、公立園と私立園の状況を見ると、今後、保育提供量の減を行わない場合は1,500人の提供量となり、入園見込み1,200人との差は300人となります。

それを公立園で保育提供量の調整を行うことで、予備定員として200人程度とする目標としています。ここまでが、前回の委員会で承認をいただいたところとなります。

次に前回までで、決定しなかった部分について説明を行いたいと思います。15ページの計画期間を見て下さい。計画期間は令和4年4月1日から令和6年3月31日までの2か年計画としています。進め方などの詳細については16から17ページに記載しています。そちらのページを見て下さい。

- (1) 反田保育園・坂井保育園の閉園は令和6年3月31日とし、園児募集は令和5年まで行うこととしました。これは、現在の指定管理者と打合せを何度か行いこの結論としました。当初、令和7年3月31日閉園も検討しました。これは来年度、入園する園児を卒園まで保育をすることができるためです。しかし、閉園する2園だけそのような形で運営することは、園児数が極端に少なくなる可能性が高く、子どもにとっての成長の場としての保育園という観点で不安があることや、保育士が自分の雇用面での不安が生じる点が懸念されるため、令和6年3月31日に他の地域保育園の民営化のタイミングと同時に閉園することとしました。
- (2) 名木野保育園・和楽保育園・漆山保育園の3園セットでの民営化は、令和6年4月1日に移行を目指すものとしました。令和4年度に民間事業者の募集を行い、令和5年度は1年間かけて引継ぎ保育を行うものとしました。
- (3) 本所保育園・桜保育園・わかば保育園の保育提供量の調整で50人減少させることは、令和6年3月31日までとしました。

事務局からの説明は以上となります。

【小池委員長】

前回の委員会では、計画の大本を承認いただいたところですが、資料の変更点としては、地図やグラフを加え、視覚的に見やすくしたところです。ここで、確認等があれば伺いたいと思います。また、今回、新たに承認いただきたいところは、追加ページである16ページと17ページの計画の具体的な進め方です。皆様、ご質問等ございますか。

—質問・確認事項などなし—

ないようですので、承認に移りたいと思います。皆様、第3次見附市公立保育園民営化等実施計画(案)のご承認をいただけますでしょうか。

—承認—

ありがとうございます。第3次見附市公立保育園民営化等実施計画(案)が承認されました。皆様から多くの意見をいただきまして、計画をまとめることができました。改めて御礼を申し上げます。

今回は最後の委員会となります。ここで、委員会に参加してみて、感じたことや今後の見附市の保育について要望することなど、自由に感想や意見をいただきたいと思います。

神子島委員からお願いしていいでしょうか。

【神子島委員】

私の4人の子どもは、一番上の子どもは漆山保育園、次が本所保育園へ入園しました。しかし、3番目の子どもは本所保育園を希望しましたが入園することができず、すみれ保育園への入園となりました。現在は、一番下の子どももすみれ保育園へ入園しています。私は地域保育園、公立園、私立園の全ての園を経験することができました。どこが一番良かったかという私見ですが、私立のすみれ保育園が色々面倒を見てもらっている印象があります。

漆山保育園の時は同級生が3人しかいなかったため、上級生や下級生と一緒に保育となったことは残念でした。しかし、卒園式を子どもがインフルエンザで出席出来なかったのですが、別日程でもう一度やってくれるという、親としても嬉しい対応をしていただきました。私立園と設備等も異なることから、サービス面で差があるのかもしれませんが、小さい園ならではの良い部分もあり、多くの卒園生や地域の人たちにとって大切な思い出となっているはずです。閉園する園にもそのような人たちがいることを市は大切にしてほしいと思います。

【五十嵐委員】

今回の委員会への参加は、とても貴重な経験だったと思います。最近、友達のお母さんから聞いた話なのですが、保育園入園の希望を出したが、言葉の発達なのか体の発達なのか詳細は不明ですが、入園を断られたとのこと。今回の計画の資料でもありますが、サポートが必要な子どもはたくさんいます。

園の方針もあるとは思いますが、保育が難しいお子さんが入れないのは、そのような子どもと他の子どもと一緒に育っていく場を提供できないということであり、残念に感じます。

私の子どもは2人とも、見附天使幼稚園へ入園させていただきました。見附天使幼稚園は発達が遅い子も同じ教室と一緒に活動をしていました。子どもも発達が遅い子どもがいるということを少しずつ理解し、みんなで支えている環境を園が作っている雰囲気がありました。効率を優先するのも大切だとは思いますが、今回の知り合いの件で、一緒に成長していける環境をしっかりと作ることの大切さを改めて感じ、そのような場をしっかりと整備して欲しいと感じました。

【森澤副委員長】

回数が少ない中、非常にコアな内容の委員会であり、皆様からは多くの意見をいただき、今回の3回目で計画をまとめることができました。非常にありがとうございました。劇的に変化する社会の環境の中、皆様からは大変な仕事をしていたのだと思っています。

皆様が本当に知りたい、民営化の細かい内容は計画レベルのため、記載していません。そのため、ネガティブな部分が多い計画のため、不安になったものと思われるし、議論を続けていく中でも言葉を選び配慮しながら発言していただいたものと感じております。

今後、実行段階になると、より明確な内容となり、民間の活力や知識も取り入れた動きとなります。

今回は、非常に良い議論ができたと思います。大変ありがとうございました。

【小林委員】

今後の保育園のあり方について、貴重な経験をさせていただきました。民間事業者へ移管することや閉園は関係者全員が不安となります。特に、保護者や地域の方には、丁寧な説明をしてもらいたいと思います。何となく閉園することや民営化されることが伝わるのではなく、適切な対応を行うことが大切だと思います。園は子どもたちが主です。子どもたちにとっては、そこでの生活は毎日が大切なものです。全てにおいて、子どもたち優先でお願いしたいと思います。

【山口委員】

計画が出来上がり、今後は課題解決に向け実行することになると思います。今回の計画ではクローズアップされていないことですが、総務課の人事担当である私の立場からの発言をさせてもらいたいと思います。

今回の計画は、現場の職員にとってはネガティブな方向で進む話だと思います。そのため、職員に向けた対応も必要です。計画内では明確な記載はありませんが、今回の計画について、不安を持っている職員も多いと思います。職員へのサポートをしっかりとしてほしいということと、総務課としても、こども課と情報共有しながら、職員の不安を少しでも取り除けるよう進めていきたいです。

【鈴木委員】

今回の計画では閉園が関係することから緊張して参加させていただきました。今後、こども課は丁寧に進めてもらいたいと思います。計画内では、3園セットの保育園の民営化、1小学校区1保育園の維持を掲げています。しかし、そもそも名木野地域は子どもが少なくなっているため、民営化された後、事業者側は、計画とは別の判断が必要となるかもしれません。その判断などにより、次の課題が出て、第4次計画が必要となるかもしれません。もちろん、今回の計画で全ての課題を解決できるわけではないと思います。次々に課題は出てくると感じました。その都度、丁寧に対応をしてもらいたいと思います。

【小池委員長】

皆さんから貴重な意見をいただき、民営化をテーマに話し合いを続けてきました。今の見附市に生じている状況を、保育だけでなく、子どもが育つ環境にどのようなことが起きているのかを再確認する場でもありました。

先日、事務局の皆さんと地域保育園である、反田保育園と漆山保育園を視察させていただきました。今回の計画で閉園することになっている反田保育園でも、他の保育園と同様に、子どもたちは楽しそうに生活をしていました。

しかし、設立当初と現在では保育に求められるものが大きく変わっています。一番の変化は保育時間が長くなったことです。当時は農繁期の保育需要として、重要な役割を担っていたと思われませんが、今、保育園が求められているのは、長時間子どもが豊かに生活できる、育ちの環境という観点から考えると、厳しい言い方をすると閉園のタイミングが来ているのだと感じています。

地域の方たちの思いで作られた保育園であり、この地域の子も達への思いは決してなくなることはないと思います。その思いを、子ども達に対して次は地域として何ができるか考えていく機会となれば良いと思います。不安を感じること

については理解できますが、保育園を作ってくれた先人たちへの敬意を持ち、次の段階へ進んでいければいいと思います。

五十嵐委員が話してくれた、様々な状況の子どもが増える中で、幼少時代から自分とは違う環境や状況の子どもがいることを共有する場があることは重要と考えます。そのためには手厚い大人のサポートが必要であり、それを準備することが我々の役割だと思います。今回の計画である、公立保育園の定員を減らす流れは、様々な子どもが手厚くサポートを受けることができる環境を整備することも目的の一つだと思います。就学前の子どもの育ちが全てではありませんが、この時期、どのような環境で育ったかは、その後の人生において重要と考えます。

山口委員と鈴木委員からは、非常に重要な視点で発言していただきました。今回の計画の内容は、ネガティブなものが多く、働いている職員は不安を感じると思います。公立園の先生方には、皆さんだからできることに力を入れてもらいたいし、そのような環境づくりにつなげる計画であることを職員に伝えてほしいと思います。

今の段階で出てきた課題を可能な限り解決できるように第3次計画(案)を策定しました。しかし、今後、新たな課題が出てきたときには、丁寧に進めていくことが大切です。

そして、保育士が保育に専念できる環境を整えることも必要であるべきと考えます。

委員の皆様、今回の計画策定にご協力いただき、誠にありがとうございました。マイクを司会へ戻したいと思います。

【司会】

小池委員長、ありがとうございました。3か月、3回に渡る委員会へのご協力ありがとうございました。最後に、こども課長の伴内から皆様に御礼を申し上げます。

【課長】

皆様、長期間のご協力ありがとうございました。委員の皆様から多くの意見をいただきました。事務局の立場から、今回の会議を振り返りたいと思います。

この見附市公立保育園民営化等実施計画は、第1次では平成24年度末に庄川保育園を閉園、平成26年4月に中央保育園を民営化しました。第2次計画では平成28年4月に地域保育園の指定管理制度を導入、平成30年4月に見附保育園の民営化を行いました。そして、今回の委員会では第3次計画(案)の内容についてご承認をいただきました。

私は、昨年度、こども課長に着任し、市長から公立保育園の民営化を進めるように指示を受けました。今回の計画(案)策定に至るまで、様々なステークホルダーが関係しており、足踏みをしていた期間がありました。しかし、今となってはこのタイミングで計画(案)を策定できたことは非常に良かったと感じています。老朽化した施設をどうしようかしっかりと検討できたこと、私立園の新築や増築、新規参入により定員の変更が生じること、そして、令和2年度に子ども・子育て支援事業計画を策定したことにより、令和6年度までの保育の見込み量が出ていの中で、そのような材料が全てそろった状態で今回の計画を策定できたこ

とは、見附市の今後の子どもたち全体を把握した上で進めることができたと思います。

今後、令和5年度末に地域保育園の反田保育園、坂井保育園の閉園、令和6年4月に名木野保育園、漆山保育園、和楽保育園の民営化を進めていくことになると思います。

子どもファースト、子どもの視点に立って取り組み、サービスを低下させるのではなく、むしろ向上させるような取り組みへつなげたいと考えます。神子島委員、五十嵐委員からは私立園の良いところの発言をいただきました。行政側は民間の力を引き延ばしていきたいと思います。

また民営化は、市側にも大きなメリットがあります。少し生々しい話ですが、公立保育園は市が全ての経費を負担していますが、私立園の場合は国や県から補助金が多く入ってきます。市の財政面からも民営化は推進していかなくてはならないと感じます。

委員の皆様からは、全3回にわたり多くの意見をいただき、これからの子どもたちにとって一番良い選択ができたのではないかと思います。長い期間、大変ありがとうございました。

後日、小池委員長から市長へ第3次公立保育園民営化等実施計画(案)として渡してもらう予定であります。

【司会】

以上を持ちまして、第3次見附市公立保育園民営化等実施計画検討委員会を終了します。皆様、大変ありがとうございました。